

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的・協働的に学び、持続可能な社会を創ろうとする子供の育成
～国語科・算数科と生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントを通して～

(2) 主題設定の理由

本校は、平成元年に、文部科学省（当時 文部省）から研究開発校の指定を受け、生活科の授業研究に取り組んできた。また、平成23年からは、吉川地域を「まるごと学びのステージ」と設定し、地域の特色を生かした地域教材、及び単元の開発に取り組み、生活科に加え、総合的な学習の時間の授業研究を進めてきている。また、ユネスコスクール登録に向けて、SDGsの視点を取り入れ、地域の課題と社会や世界とのつながりを感じられるよう、教育課程の見直しを図っているところである。

昨年度は、これまで開発してきた地域教材や単元を、児童の解決欲求を引き出す課題設定や、個人探究・表現の場の充実、ゴールの明確化等を視点として見直し、ブラッシュアップを図った。その際、多様な他者と関わり、考えを広げたり深めたりすることができるよう、海外の研究者や、新たな地域人材をゲストティーチャーとして招聘して話を聞いたり、学んだことを伝える相手として設定したりした。このことにより、課題解決に向けてより主体的に学習に取り組む児童の姿を引き出すことができた。

一方で、各学年で開発した単元の系統性や、各教科で学んだこと、とりわけ国語科や算数科で身に付けた資質・能力が、生活科や総合的な学習の時間の中で生かされているかという点において課題が残った。さらに、意図的に多様な他者と関わる場を設定し一定の成果は得たものの、本校児童は、小集団かつほぼ同じ人間関係の中で育ってきていることから、物事を多面的・多角的に捉えたり、新たな見方・考え方に触れ、そこから新たなものを生み出したりする経験が不足していることについては、依然課題が残る。そこで、これまで培ってきた地域人材等との関係を生かし、多様な他者と協働しながら、新たなことにチャレンジする「協働的な学び」を充実させる必要があると考えた。

以上のことから、今年度は、昨年度ブラッシュアップした地域教材や単元をベースとして、次の2点に取り組むこととした。

① 国語科・算数科で身に付けた資質・能力を生活科・総合的な学習の時間で活用するカリキュラム・マネジメントを行う。取り扱う内容及び身に付けさせたい力を次のとおり設定する。

・国語科 「書くこと」及び「聞くこと・話すこと」

自分の考えを論理的に伝えるための表現力

・算数科 「データの活用」

事象を統計的に捉え、分析し、課題解決や表現に生かすためのデータ活用力

② 内容の系統性、及び協働的な学びの充実を視点として、生活科・総合的な学習の時間の単元の内容を整理する。

これらに取り組むことが、研究主題で目指す児童の育成につながると考え、本研究主題及び副題を設定した。

(3) 研究仮説

SDGs の視点を取り入れた生活科・総合的な学習の時間の学習において、国語科・算数科で身に付けた資質・能力を生かした協働的な学びを設定するカリキュラム・マネジメントを行えば、主体的・協働的に学び合い、持続可能な社会の担い手となる児童を育成することができるであろう。

(4) 研究内容

- ① 国語科・算数科で身に付けた資質・能力を、生活科・総合的な学習の時間で活用するカリキュラム・マネジメントを行った生活科・総合的な学習の時間の単元開発（ICT 活用を含む）
- ② 内容の系統性、及び協働的な学びの充実を視点として、生活科・総合的な学習の時間の単元の内容を整理する。

(5) 検証の指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
国語科・算数科で身に付けた資質・能力を、生活科・総合的な学習の時間で活用するカリキュラム・マネジメントを行った生活科・総合的な学習の時間の単元開発（ICT 活用を含む）ができたか。	単元開発	作成した単元	100%
児童が、国語科・算数科で身に付けた資質・能力を、生活科・総合的な学習の時間で活用しているか。	児童の学習成果物	既習事項を活用している児童の割合	100%
内容の系統性、及び協働的な学びの充実を視点として、生活科・総合的な学習の時間の単元の内容を整理したか。	単元開発	作成した単元	100%

2 校内研修計画

前年度の研究成果と課題の分析及び、児童の実態把握	4 月前半	・研究推進計画案作成 ・研究の年間計画案の立案 ・研究方法の確認
国語科・算数科の指導内容の確認とカリキュラム・マネジメント	4 月後半	・国語科、算数科の指導内容の確認 ・カリキュラム・マネジメント
国語科・算数科の授業交流	5 月～7 月	・国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数科の「データの活用」領域の授業交流
カリキュラム・マネジメントを取り入れた生活科・総合的な学習の時間の単元開発（ICT 活用を含む）	8 月	・内容の系統性、及び協働的な学びの充実を視点として、生活科・総合的な学習の時間の単元の内容を整理 ・学習指導案の作成（単元の開発）
校内研究授業	9 月～12 月	・学習指導案の検討（事前研修） ・授業提案（生活科・総合的な学習の時間） ・授業後協議会（事後研修）
本年度の研究のまとめ	1 月～3 月	・研究成果と課題 ・研究のまとめ ・児童の成果物等の交流

研究公開の予定はない。

学校教育目標

強く 正しく うるおいのある子供の育成
～一人一人に生きてはたらく力を育てる～



目指す子供像

『吉川を創る子供』

☆強い子

最後までやりきる子

☆正しい子

正しいかどうか自分で判断し行動する子

☆うるおいのある子

よさや違いなどに気付き、やさしくできる子



主体的・協働的に学び、
持続可能な社会を創ろうとする子供の育成

～国語科・算数科と生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントを通して～

